

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(哲学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名： 古代中世西洋哲学史(1)／西洋哲学史(1)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-WP1-J103

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:35 更新者： XEA403

更新日時： 2024-01-09 05:14:38

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか?今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。前期は古代ギリシア哲学を中心的に論じる。なお、実施方法は、全て面接形式で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史の事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史の事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

実施方法は、全て対面方式で実施する。

- 第 1 回 インTRODakション：古代ギリシア哲学史をどのように学ぶか?
- 第 2 回 ソクラテス以前の哲学(イオニア学派：自然学の勃興)
- 第 3 回 ソクラテス以前の哲学(ヘラクレイトス：絶えず変転する世界)
- 第 4 回 ソクラテス以前の哲学(パルメニデス：存在論の始まり)
- 第 5 回 ソクラテス以前の哲学(ピタゴラス派：数的調和の神秘)
- 第 6 回 ソクラテスの哲学とは何だったのか?
- 第 7 回 ソクラテス的論駁法とその目的
- 第 8 回 プラトン：対話篇とは何か?
- 第 9 回 プラトン：イデア論とは何か?
- 第 10 回 プラトンからアリストテレスへ
- 第 11 回 アリストテレス：カテゴリー論と実体論
- 第 12 回 アリストテレス：魂(アニマ)・生命・認識
- 第 13 回 アリストテレス：倫理学と政治学
- 第 14 回 前期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、 $2.5 \times 14 = 35$ とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメと資料を配布する。なお、自学用の参考書として、前期は『世界哲学史 I』『世界哲学史 II』(ちくま新書、2020年)を推薦する。その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 古代中世西洋哲学史(2)／西洋哲学史(2)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-WP1-J104

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:35 更新者： XEA403

更新日時： 2024-01-09 05:12:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか?今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。後期はヘレニズム期の哲学諸派から説き起こし、近代を先取りした後期スコラ哲学まで、中世哲学を中心に論じる(したがって、後期の内容を十分に理解できるためには、前期の講義も受講済みであることが望ましい)。

なお、実施方法は、全て面接形式で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史的事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史的事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

実施方法は、全て対面方式で実施する。

- 第 1 回 インタロダクション：古代から中世へ：中世哲学の視野。
- 第 2 回 ヘレニズム期の哲学：ストア派・エピクロス派
- 第 3 回 古代末期の哲学：新プラトン主義
- 第 4 回 ユダヤ教におけるプラトン主義の受容：フィロン
- 第 5 回 キリスト教の始まり：新約・旧約聖書
- 第 6 回 初期ギリシア教父：オリゲネス、アレイオス論争
- 第 7 回 カップドキア教父：バシレイオス、ニュッサのグレゴリオス
- 第 8 回 ラテン教父：アウグスティヌス(『告白』)
- 第 9 回 アウグスティヌス(『三位一体論』)
- 第 10 回 神秘思想：ディオニュシオス・アレオパギテース
- 第 11 回 初期スコラ哲学における神の存在証明：アンセルムス
- 第 12 回 盛期スコラ哲学：トマス・アキナス
- 第 13 回 後期スコラ哲学：主知主義から主意主義へ
- 第 14 回 後期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、2.5x14=35とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書という扱いはありませんが、以下を授業でも使用する予定です。自学用の参考にしてください。
K・リーゼンブーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：倫理学概論

担当教員：出村 和彦

履修年度：2024 学期：通年

開講曜日時限：火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:42 更新者：XEA403

更新日時：2024-01-09 05:25:12

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この授業では、「倫理学（あるいは道徳哲学）とは何か」という問いをめぐって、様々な観点から考察を試み、基本的な知識を習得し、主だった倫理的・道徳的な考え方を使いこなせるようになることを目指します。そのために、倫理学の歴史を古代から現代まで振り返り、規範倫理学とメタ倫理学の諸理論を主要テキストに基づいて解説していきながら、最終的には、広範な倫理学的パースペクティブの下に「倫理学とは何か」を概略を理解しその思考法に習熟することが目指されます。なお、実施方法は、対面形式で進めます。

科目目的

この科目は以下の3点を目的とします。

- ① 倫理学の歴史を古代から現代まで振り返り、広範な倫理学的パースペクティブを習得すること。
 - ② 規範倫理学とメタ倫理学の諸理論をそれぞれのテキストに基づいて理解すること。
 - ③ 以上によって習得した新たな観点から具体的な倫理学的問題にみずから取組めるようになること。
- 以上です。

到達目標

身近な家族・友人関係の問題からグローバルな地球環境や世界政治・経済の問題に至るまで、倫理的問題をはらむあらゆる出来事に、自分自身の意見が持てるようになることをめざします。そのためには、倫理学的な背景をきちんと理解・習得すると同時に、具体的な倫理的問題に関するケーススタディを通じて、倫理的に物事を読み取り・考え・表現する力を身につけてほしい。

授業計画と内容

授業は、対面形式で進めます。

<前期>

- 第1回 インTRODクシヨン（倫理学の学び方、この授業の進め方）、行為についての考察の視点
- 第2回 ソクラテス：よく生きること
- 第3回 倫理学とは：エトスの学としての倫理学と「人間の学としての倫理学」
- 第4回 アリストテレス（1）：目的論的倫理学 最高善としての幸福
- 第5回 アリストテレス（2）：徳（アレテー）と幸福
- 第6回 ヘレニズムの倫理：コスモポリテースの生き方
- 第7回 中世キリスト教人間観：「神の像Imago Dei」としての人間、ペルソナとしての個人
- 第8回 近代道徳哲学の形成：宗教からの分離（マキャヴェリ、モンテーニュ、デカルト、パスカル）
- 第9回 ホッブズの道徳哲学-欲求と紛争-（ストア派の「衝動（ホルメー）」から「コナトウス」へ
- 第10回 イギリスの道徳哲学：道徳感情論
- 第11回 自己感知と良心、義務と意志-完全義務と中間義務（キケロ）、思慮・良知・良心-
- 第12回 行為の自発性と責任-自由と決定論、あるいは意志について(1)：ローマストア派
- 第13回 意志と自由-自由と決定論、あるいは意志について(2)：アウグスティヌス-
- 第14回 前期のまとめ：クラス討議、質問コーナーなど

<後期>

- 第1回 インTRODクシヨン：
- 第2回 カントの道徳哲学（1）義務論的倫理学、自律
- 第3回 カントの道徳哲学（2）定言命法
- 第4回 功利主義(1)-ジェレミー・ベンサム：ベンサムの人間心理論
- 第5回 功利主義(2)-J・S・ミルの倫理学：功利性の原理
- 第6回 功利主義をのりこえて(1)-R. M. ヘア「倫理学理論と功利主義」の観点
- 第7回 功利主義をのりこえて(2)-チャールズ・テイラー「善の多様性」の観点
- 第8回 ここまでのまとめ、質問コーナー
- 第9回 現代における功利主義と正義論の展開
- 第10回 徳倫理学とカント(1)
- 第11回 徳倫理学とカント(2)
- 第12回 徳倫理学とカント(3)
- 第13回 クラス討議、質問コーナー
- 第14回 後期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	58% 前期末と後期末にそれぞれ期末試験(記述式)を1回ずつ、各 $29 \times 2=58\%$ 。
レポート	0%
平常点	42% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は28回あるので、各 $1.5 \times 28=42\%$ 。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回、レジメと資料を配布する。参考文献に関しては授業でその都度、指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：倫理学概論(他専攻)

担当教員：石橋 賢太

履修年度：2024 学期：通年

開講曜日時限：金4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:01:42 更新者：AD0073

更新日時：2024-01-07 22:24:51

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代を生きる我々は、様々な課題を抱えている。それらの課題の中には、容易に解決し得ないものも多い。そのような難問を考える際に大きな助けとなるのが、先人たちの思想である。先人たちの思考を辿ることで、我々が複雑な現実に向かう上での力を与えてくれる。本授業では、そのような先人たちの思想について、東洋の思想を読み解くことで学んでいく。前期は仏教と中国思想について学び、後期はそれらの影響のもとに発展した日本の思想を学ぶ。これを通して、「国際社会に生きる日本人としての自覚」についても考えていくことができるはずである。

なお本授業は教職課程を履修していない者にも有効な授業とすることを目指しているため、教員免許に関係のない者の履修も歓迎する。

科目目的

本授業は中学社会科・高校公民科の教員免許取得のための科目なので、受講者が実際に中学・高校で授業を教える際に必要な知識を得ることを第一の目的としている。ただしそれにとどまらず、本授業を通して得られた知識により、人間や社会についてみずからの力で考えられる能力を育成することを最終的な目的とする。

到達目標

本授業では、高校公民科「倫理」のうち、中国や日本などの東洋思想についての十分な知識を得られることを目標とする。また、単にそれらの知識を得るだけにとどまらず、その知識を活かして、様々な倫理学上の問題を考える力を受講者が身に付けることも目指していく。

授業計画と内容

〈前期〉

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 倫理学とは何を学ぶのか？—和辻哲郎の所説から考える
- 第3回 仏教の思想① ブッダの思想
- 第4回 仏教の思想② ブッダ以後の仏教の展開
- 第5回 仏教の思想③ 大乘仏教の展開
- 第6回 儒教の思想 孔子の思想
- 第7回 先秦の思想 諸子百家の思想
- 第8回 漢代の思想 儒教の国教化と黄老思想
- 第9回 魏晋の思想 中国における仏教の流行
- 第10回 唐の思想 道教の隆盛と三教鼎立
- 第11回 宋の思想 士大夫の登場と朱子学
- 第12回 明の思想 朱子学と陽明学
- 第13回 清～近代の思想 対外危機の時代の思想
- 第14回 まとめ・総括

〈後期〉

- 第15回 後期授業のガイダンス
- 第16回 古代の思想① 『古事記』と『日本書紀』
- 第17回 古代の思想② 外来思想の受容
- 第18回 古代の思想③ 日本における仏教の受容と展開
- 第19回 中世の思想① 鎌倉仏教の諸宗派
- 第20回 中世の思想② 中世の諸思想
- 第21回 近世の思想① 近世武士の思想—士道と武士道
- 第22回 近世の思想② 近世の儒教思想—朱子学と反朱子学
- 第23回 近世の思想③ 近世の諸思想
- 第24回 近世の思想④ 国学の思想
- 第25回 幕末の思想 西洋の衝撃と伝統思想
- 第26回 近代の思想① 文明開化と西洋思想の受容
- 第27回 近代の思想② 近代日本の諸課題
- 第28回 まとめ・総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	授業内容をどの程度理解しているか、及びそれを活用してみずから考える力が身に付いているかを評価。
レポート	0%	
平常点	40%	授業への参加度合、及び毎回の課題における取り組みの積極性を評価。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の授業後に提出する課題については、次回授業の冒頭に講評を行なう。また、課題の中では質問も受け付けるので、それも次回授業で回答する。
また、メールによる質問や相談は随時受け付ける。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しない。適宜、プリントを配布する。

参考文献
和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫、2007）
井ノ口哲也『入門 中国思想史』（勁草書房、2012）
佐藤弘夫編『概説日本思想史』（ミネルヴァ書房、2005）
清水正之『日本思想全史』（ちくま新書、2014）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 科学哲学研究

担当教員： 飯盛 元章

履修年度： 2024 学期： 通年

開講曜日時限： 水5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-PE2-J213

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:42 更新者： AD0663

更新日時： 2024-01-07 02:27:39

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「時間とはなにか」と「科学的知識とはなにか」というテーマで講義をします。

前期と後期数回をかけて、「時間」という個別の概念を取り上げます。まず、時間が自然科学（特に物理学）においてどのように扱われているのかを紹介します。自然科学のなかでは、任意の時点しか存在せず、特権的な現在というものがないため、「時間が過去から未来へ流れる」ということが表現できません。「時間が流れる」ということをどのように考えたら良いのか。この点について、現代の分析形而上学の議論を手がかりに考察していきます。また、その他のさまざまな哲学者が時間についてどのように考えているのかも見ていくことになります。

後期の残りの回では、そもそも科学的知識とはどのようなものなのかについて考察します。ポパーの反証主義やラトゥールのアクターネットワーク理論などを参照することによって、科学者の営みについての理解を深めることを目指します。

科目目的

この授業には、以下の目的があります。

- (1) 自然科学の見地を踏まえ、人間の生や日常的な見方を相対化できるようになること。
- (2) 自然科学では語りえないもの（〈今〉や〈ここ〉など）があるということを理解すること。
- (3) 自然科学そのものを相対化し、自然科学の見解には歴史的な発展があるということを理解すること。

到達目標

授業で扱われる内容（時間の本質、科学的知識の本質など）について自分の言葉で説明し、それに対して自分の主張を論理的に展開できるようになること。

授業計画と内容

毎回、前回の授業で書き込んでもらったコメントについて紹介・解説しながら、ゆっくりと進めていきます。授業でわからなかった点や思いついたことなどを、授業後にコメントフォームに書き込んでください。

- 第01回 前期の導入
- 第02回 時間とはなにか(1)―特殊相対性理論と時間
- 第03回 時間とはなにか(2)―一般相対性理論と時間
- 第04回 時間とはなにか(3)―量子論と時間
- 第05回 時間とはなにか(4)―熱力学と時間
- 第06回 時間とはなにか(5)―タイムトラベルの哲学
- 第07回 時間とはなにか(6)―タイムトラベルの哲学（続き）
- 第08回 時間とはなにか(7)―マクタガート、時間の非実在性
- 第09回 時間とはなにか(8)―現在主義と永久主義
- 第10回 時間とはなにか(9)―ベルクソン、持続としての時間
- 第11回 時間とはなにか(10)―ベルクソン、持続としての時間（続き）
- 第12回 時間とはなにか(11)―現象学における時間
- 第13回 時間とはなにか(12)―現象学における時間（続き）
- 第14回 前期の総括・前期レポートの書き方について
- 第15回 後期の導入
- 第16回 時間とはなにか(13)―ホワイトヘッド、生成としての時間
- 第17回 時間とはなにか(14)―ホワイトヘッド、生成としての時間（続き）
- 第18回 時間とはなにか(15)―ホワイトヘッド、生成としての時間（続き）
- 第19回 時間とはなにか(16)―ハーマン、対象と時間
- 第20回 時間とはなにか(17)―ハーマン、対象と時間（続き）
- 第21回 時間とはなにか(18)―メイヤサー、あらゆるものを破壊しうる時間
- 第22回 時間とはなにか(19)―メイヤサー、あらゆるものを破壊しうる時間（続き）
- 第23回 時間とはなにか(20)―メイヤサー、あらゆるものを破壊しうる時間（続き）
- 第24回 科学的知識とはなにか(1)―ポパーの反証主義
- 第25回 科学的知識とはなにか(2)―クーンのパラダイム論
- 第26回 科学的知識とはなにか(3)―ラトゥールのアクターネットワーク理論

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	2回(前期と後期)のレポート提出により判定。授業の内容を理解し、自分の主張を論理的に展開できているかを確認します。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として出席点や平常点は考慮せず、レポートのみによって評価します。ただし、それまでに話したことを前提にして授業の議論が進んでいくので、可能な限り出席することを推奨します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

毎回コメントフォームに質問や意見を書き込んでもらいます。それらに対して、つぎの回に教員が応答します。わからなかった点、思いついた論点などを自由に書いてください。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特にありません。参考文献は授業内でその都度、配布ないし紹介します。差し当たり、以下のものを挙げておきます。

参考文献

- ・吉田伸夫『時間はどこから来て、なぜ流れるのか?—最新物理学が解く時空・宇宙・意識の「謎」』(講談社、2020年)
- ・森田邦久『時間という謎』(春秋社、2020年)
- ・戸田山和久『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』(NHK出版、2005年)
- ・伊勢田哲治「科学哲学」(『哲学の歴史11』中央公論新社、2007年所収)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(1)(11)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:44 更新者： XEA403

更新日時： 2024-01-09 05:28:37

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

プラトンの対話編は、和訳本で読んでも実に面白いものですが、作品に登場するソクラテスとその対話相手相手との間で交わされる対話からその哲学的意義を汲み取るのはなかなか難しいものです。本講義では、ソクラテスが生き生きと描かれているプラトン初期から中期対話編の『ゴルギアス』『国家第1巻』『饗宴』『テアイテトス』を中心に、プラトンにとってのソクラテス(哲学)の原初的問題のいくつかを考察して、対話編読解を通じて哲学することを共に学んでいきます。

科目目的

- この講義では、以下の3点を目的とします。
- ① プラトン初期中期対話編をその内容をテキストに即して正確に理解すること。
 - ② 彼の哲学体系に位置付けた上で、ソクラテス(哲学)が何であったかを理解すること。
 - ③ 現代における倫理的な問題状況において、ソクラテス・プラトンの考え方がどの程度有効に機能するのかを検証すること。

到達目標

プラトンにとってのソクラテス(哲学)の原初的問題のいくつかを考察を通じて、対話編読解を通じて哲学することの独自性を理解する。
その上で、ソクラテスプラトンの道徳哲学が現代のさまざまな倫理的問題に対してどの程度有効であるのかを、自分なりに批判的に吟味できるようになることをこの講義の最終目標として掲げたいと思います。

授業計画と内容

1. イントロダクション : プラトンと対話編
2. ソクラテスの原点 : 『ソクラテスの弁明』『クリトン』
3. 『ゴルギアス』(1) 弁論術の力
4. 『ゴルギアス』(2) 幸福と善・美・正
5. 『ゴルギアス』(3) 政治と哲学
6. 『ゴルギアス』(4) 死後の裁きと今を生きること
7. 『国家』第1巻の問題(1) 初期対話編から中期対話編へ
8. 『国家』第1巻の問題(2) 正義について
9. 『饗宴』でのディオティマとソクラテスの対話の検討(1) 哲学(知を愛すること)の素性
10. 『饗宴』でのディオティマとソクラテスの対話の検討(2) 生と不死
11. 『饗宴』でのディオティマとソクラテスの対話の検討(3) 美と善
12. 『テアイテトス』冒頭の検討(1) : 助産術としての哲学
13. 『テアイテトス』冒頭の検討(2) : 知と不知の問題
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストを自分なりに読み進めることが望ましいので、毎回、指定した箇所を事前に何度も熟読し、自分なりの読書ノートを作成してから授業に臨むようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	65% 講義で取り上げた主題について、最長でも3,000字、2000字以上を目安に、小論文を提出してもらいます。
平常点	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるので、 $2.5 \times 14=35$ とカウント。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義の中で集中して共同で検討する箇所のpdfテキストは講義の前に配布しますが、それぞれ対話編全体を読んでおくことが望ましいので、以下のプラトンの和訳文庫本を購入し、各自事前に味読した上で、講義室への持参して受講することを強く勧めます。

- ・プラトン『ソクラテスの弁明』納富信留訳 (光文社古典新訳文庫)
 - ・プラトン『クリトン』以上2作品合わせて三嶋輝夫・田中享英訳 (講談社学術文庫) 所収
 - ・プラトン『ゴルギアス』三嶋輝夫訳 (講談社学術文庫)
- 以上3作品所収の田中美知太郎藤沢令夫訳 (中公クラシックス) も有り
- ・プラトン『国家』藤沢令夫訳 (岩波文庫)
 - ・プラトン『饗宴』中澤務訳 (光文社古典新訳文庫) 森進一訳 (新潮文庫)
 - ・プラトン『テアイテトス』渡辺邦夫訳 (光文社古典新訳文庫) 田中美知太郎訳 (岩波文庫)
- その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名： 哲学講義(1)(11)

担当教員： 和田 有希子

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:44 更新者： AD1166

更新日時： 2024-01-05 16:53:20

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、禅について多角的に検討していきます。禅は、仏教の一つの宗派ということ以上に、日本文化との関わりが指摘されたり、あるいは欧米の起業家などの精神的支柱になった経緯を持ちます。なぜ禅はそのような様々な価値を現出する「哲学」を有していたのでしょうか。本講義では、禅が日本で広く受け入れられた中世を中心に、禅の歴史的な展開とその意義を検討し、禅が持っている様々な「哲学」について考えていきたいと思えます。西洋哲学とはまた違った物の考え方に触れることになることでしょう。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ① 禅宗の展開を知ることから、思想がいかに重層的に展開するかを知ること。
- ② 禅宗のもつ哲学から、多様なものの考え方の存在を知ること。
- ③ 既存の枠組みで物事を捉えることの限界を知り、既存の枠組みの成立過程を自覚し、そうした枠組みを超えた見方ができるようになること。

授業計画と内容

- I 禅の見方
 - 1 イントロダクション：なぜいま禅を考えるのか
 - 2 禅宗史叙述の変遷とこれまでの禅の捉えられ方
- II 日本中世禅がもたらした哲学的課題
 - 3 栄西から見直す禅
 - 4 栄西の密教思想から捉え直す禅の意義
 - 5 栄西と中国・宋代思想との関わり：栄西の禅の見直し
 - 6 栄西の戒律：「創造」される禅
 - 7 道元禅の再検討
 - 8 鎌倉中期思想界への禅のインパクト：京都東福寺開山円爾（1200～80）の到達点
 - 9 栄西から円爾へ：中国・唐末～南宋の禅の動向と鎌倉期における受容
 - 10 禅と如来蔵思想：円爾と『釈摩訶衍論』
 - 11 鎌倉中後期以降の禅の諸方面への影響：神道説・能楽・世界観の変化
 - 12 「純粋な」禅とは何か：瑩山紹瑾の「純一の禅」、宗峰妙超の教宗批判と禅、一休の「破戒」と禅
 - 13 禅の哲学：言葉を超えることと言葉を持つこと
 - 14 総括：禅の見直しから見えてくる禅という「哲学」

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	50% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを書いてもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では、当方で作成したレジュメを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(2)(12)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:45 更新者： XEA403

更新日時： 2024-01-09 05:38:39

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、アウグスティヌス(354-430)の生涯を通じた真理探究、特に前半生のキリスト教に至る様々な出会いや後半生の司教としての働きを通じて見えてくるキリスト教の特徴的な観点とその後の西欧や日本のキリスト教思想に与えた影響をわかりやすく講義する。哲学と宗教との相互補完的な関係を、具体的アウグスティヌスの生涯とその思想を通じてキリスト教の成立の場面で考察していきます。これをを通じてキリスト教古代の思想哲学(教父哲学)の基礎知識を歴史的に説明していきながら解明していきます。

科目目的

アウグスティヌスの生涯とその思想を詳細にたどることで、わかったようで実はあまり知られていないキリスト教の源流、いわば根っこをしっかりと理解できるようになることを目指します。

到達目標

この講義では、キリスト教古代についての基礎的知識を習得すること、そして、特にアウグスティヌスの探究を視野に入れた西欧思想の源流と展開、さらにこれの日本を含む近世近代現代哲学の影響を理解すること。

授業計画と内容

1. イントロダクション はじめに：授業の進め方：真の宗教を求めて：アウグスティヌスの探究の人生
2. アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い(1)：ラテン文学と修辞学の教育
3. アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い(2)：哲学との出会い、マニ教(善悪二元論)へ
4. アウグスティヌスの探究とキリスト教の理解(1)：「心」内的理解
5. アウグスティヌスの探究とキリスト教の理解(2)：回心とその後の出発点
6. アウグスティヌスから学んで(1) 愛の秩序 『告白録』キリスト教文化の指針
7. アウグスティヌスから学んで(2) 永遠と時間：神の国
8. 司教アウグスティヌスの取り組み：キリスト教徒の生活
9. アウグスティヌス時代の教会の状況(1)：ドナティスト分派と教会の一致
10. アウグスティヌス時代の教会の状況(2) ペラギウス論争
11. アウグスティヌス『三位一体論』『神の国』『エンキリディオン』
12. 信仰・希望・愛 キリスト教で信仰する神は父と子と聖霊の三位一体の神である
13. 希望を示す(主の祈り)：愛の掟
14. アウグスティヌスの死生観：アウグスティヌスの著作の保存と伝播と受容 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- | | |
|------|-----|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 65% |
- 課題を提出するので、その課題に即したレポートを期末に提出してもらおう。

平常点 35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるの
で、 $2.5 \times 14=35$ とカウント。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

*授業で使用するテキスト
出村和彦『アウグスティヌス 「心」の哲学者』岩波書店、2017年、岩波新書新赤版1682、 ISBN978-4-00-431682-4
*参考文献その他資料は配布します。
上記テキストや講義で取り上げる箇所以外でも、アウグスティヌス『告白』I, II, III 山田晶訳(中公文庫)は各自読み進めてもらいたい。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(2)(12)

担当教員： 和田 有希子

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:45 更新者： AD1166

更新日時： 2024-01-05 17:30:45

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期には、主に禅の歴史的、思想的展開について検討しましたが、本講義では、禅を欧米に知らしめ、禅の持つ普遍性を世界にアピールした鈴木大拙(1870～1966)の著作を取り上げて、近代において禅がどのような意義を持ったのかについて考えます。鈴木大拙は、当時政治的な意味合いを背景に強い力を持っていたキリスト教など一神教に対する東洋思想の特色、西洋思想と仏教との関わりなど、幅広い言説を残しています。そうした中で彼は、結果的に、近代をどう超えるか、つまりポストモダンの思想の行方を考えさせる方向性を論じています。日本から発信されたポストモダンの思想はどのようなものか、ポストモダンの哲学に必要とされる要素とは何なのか、一緒に検討していきましょう。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ①鈴木大拙がどのような人物であり、どのような著作を残したのかについて知ること。
- ②鈴木大拙が、その当時の世界に、禅を通して何を発信しようとしたのかについて知ること。
- ③鈴木大拙の言説の背景となっている諸思想がどのようなものなのかを理解すること。
- ④鈴木大拙の思想から、近代という時代が何をもたらしたのかということに自覚的になること。
- ⑤鈴木大拙の思想が、現在でも常識になっている社会システム、倫理観に対して、どのような視点を持っているかを知り、これからの哲学の行方について考えることができるようになること。

授業計画と内容

I 大拙の出発点

1. イントロダクション：いまなぜ鈴木大拙なのか
2. 鈴木大拙に影響を与えた人々：鎌倉円覚寺禅僧、今北洪川と釈宗演

II 大拙思想が課題とするもの：近代とは何か

3. 1893年万国宗教会議における一神教と多神教の議論
4. 西洋近代思想の受容と近代への批判：『新宗教論』を読む
5. 『大乘仏教概論』を読む(1)：西洋の学問観の批判
6. 『大乘仏教概論』を読む(2)：近代における仏書『大乘起信論』への注目とその意味
7. 『日本の靈性』を読む(1)：宗教意識(靈性)重視の意味
8. 『日本の靈性』を読む(2)：言葉を超えることと近代の反省

III 大拙思想を支える思想

9. 神智学と禅：ブラバツキー神智学から戦後『神秘主義—キリスト教と仏教』執筆まで
10. 中国唐代・宋代禅との関わり：中国禅の生成・展開の観点から
11. 近代的思想と禅との整合性：方便を超えること

IV 大拙思想・禅とこれからの哲学

12. 大拙と中国歴史学者胡適との論争：メタヒストリーと実証主義的歴史学
13. 近代の価値観をどう乗り越えるか：大拙から西田幾多郎・井筒俊彦、贈与論の議論まで
14. 総括：大拙禅の伝播とポストモダンの哲学へ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出

その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	50% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを提出してもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

当方でレジュメを用意しますが、授業で使用するテキストについて、比較的入手しやすいものについて記しておきます。その他、図書館で借りることのできる必要な文献については講義内で紹介します。

- 《授業で使用するテキスト：参考までに》
- ・鈴木大拙著・佐々木閑訳『大乘仏教概論』(2016年 岩波文庫 青323-4)
 - ・鈴木大拙著『日本的靈性』(2010年、角川ソフィア文庫)
 - ・鈴木大拙著・板東性純・清水守拙訳『神秘主義—キリスト教と仏教』(2020年 岩波文庫 青323-6)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(3)(13)

担当教員： 佐藤 陽祐

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 金4

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J303,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:45

更新者： AA2233

更新日時： 2024-01-05 13:59:19

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現代の哲学シーンでもホットな議論が交わされ、かつ伝統的な問題群でもある「心の哲学」について学んでいきます。

科目目的

この講義の目的は主として3つあります。

- ①哲学的に考え、議論ができるようになること。
- ②諸君がこれまでに行ってきた「勉強」とこれから行う「学問」の違いを知ること。
そして、学問がどれほどおもしろいものなのかを体感すること。
- ③現在スリリングな研究が行われ、議論が活発な「心の哲学」について学ぶことによって、学問として専門的に哲学をすることの糸口をつかみ、諸君の興味範囲を拡大していくこと。

到達目標

心の哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. 「心の哲学」という研究領域について
3. 意識についての問題
4. クオリアと意識のハードプロブレム
5. 意識経験の構造について
6. 私たちは何を経験しているのか
7. 心の志向性について
8. 心の因果性について—心脳同一説と機能主義
9. 他者の心について
10. エモイ！—情動の本質について
11. 認知哲学の流れ
12. 古典的計算主義とコネクショニズム
13. 拡張する心
14. ホワイトヘッドの意識論

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストを読み、意味の分からなかった語句については、辞書をひき、調べましょう。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 学期末に、講義でとりあげた主題について、試験を課します。
レポート	0%

平常点 20% 出欠を確認します。前期、後期の各々半期において3回以上の欠席は単位認定不可とします。出席の上、レジュメの作成や質疑への参加を平常点として評価します。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考資料については、適宜コピーを配布します。

参考図書：
ティム・クレイン、土屋 賢二訳、『心は機械で作れるか』勁草書房、2001年。
金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007年
鈴木貴之『ぼくらが原子の集まりなら、なぜ痛みや悲しみを感じるのだろうか』勁草書房、2015年
信原幸弘『心の現代哲学』勁草書房、1999年
柴田正良『ロボットの心——7つの哲学物語』講談社現代新書、2001年
など

他にもたくさん参考文献はあります。学習が進み、興味が拡大したら講師に遠慮なく尋ねること。

オフィスパワー

その他特記事項

成績評価を非常に厳しく行うので、努力、根性、気合いを見せてほしい。学位を取得しようとするならば、大学で学問をする覚悟と気概を持つこと。

参考URL

備考

科目名: 哲学講義(3)(13)

担当教員: 瀬嶋 貞徳

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J303,LE-PE4-J31

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:01:45 更新者: AB4446

更新日時: 2024-01-12 14:43:15

履修条件・関連科目等

哲学講義(4) (14)

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋哲学において「实在」とは何であったのかについて考えるとともに「哲学」「観念」についての理解を深めていきます。参加者にも意見を求めます。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①「哲学」とは何であるのかの基本的理解。
- ②「哲学」における「实在」と「観念」の重要性の理解。
- ③哲学を専門に勉強する意義について考えることができること。

到達目標

哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 「哲学」とは何か
3. 「哲学」における「实在」と「観念」
4. 古代における「实在」と「観念」
5. 中世キリスト教における「实在」と「観念」
6. 想起説と照明説について
7. アンセルムスの「神の存在論的証明」
8. 近世合理主義における「観念」と「实在」
9. カント「Seinはレアルな述語ではない」
10. G. E. ムーアの実在論
11. ムーアの「観念論論駁」
12. 「存在するとは知覚されてあることである」
13. ムーアの実在論と「反哲学」
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|----------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 50% 前期末にレポート課題を課します。 |

平常点 50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考資料については、manaba 上で公開します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(4)(14)

担当教員： 佐藤 陽祐

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 金4

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J304,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:46 更新者： AA2233

更新日時： 2024-01-05 14:03:40

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

公共哲学という分野を確認し、公共圏に属する諸問題を取り上げ、皆で議論を行います。

科目目的

この講義の目的は主として3つあります。

- ①哲学的に考え、議論ができるようになること。
- ②諸君がこれまでに行ってきた「勉強」とこれから行う「学問」の違いを知ること。
そして、学問がどれほどおもしろいものなのかを体感すること。
- ③公共哲学や政治思想について学ぶことによって、市民社会に生きる一人の人間としての私たちのあり方を考えながら、学問として専門的に哲学をすることの糸口をつかみ、諸君の興味範囲を拡大していくこと。

到達目標

公共哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. イントロダクション&公共哲学とは何か(1)
2. 公共哲学とは何か(2)
3. 専門知はもういらぬのか
4. インクルーシブという思想
5. リスクへの補償のあり方とその問題について
6. 集団の意思決定の方法について—社会的選択理論
7. 異質な他者とどのように共存するか—寛容と公共性—
8. 移民との共生について
9. 生命科学・生命倫理と市民社会(1)
10. 生命科学・生命倫理と市民社会(2)
11. 福祉の哲学
12. 科学技術における公共的問題
13. 民主主義はオワコンなのか
14. 実践的に考える—公共哲学はあなたの問題

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストを読み、意味の分からなかった語句については、辞書をひき、調べましょう。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|---------------------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 80% 学期末に、講義でとりあげた主題について試験を課します。 |
| レポート | 0% |

平常点 20% 出欠を確認します。3回以上の欠席は単位認定不可とします。出席の上、レジュメの作成や質疑への参加を平常点として評価します。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義で使用するテキストや資料は、manabaにPDFファイルをアップします。

講義内で適宜、参考文献を提示します。

参考文献

山脇直司『公共哲学とは何か』ちくま新書, 2004.

マイケル・サンデル『公共哲学 政治における道徳を考える』ちくま学芸文庫, 2011.

オフィスアワー

その他特記事項

全員に指定の資料を事前に読み込んでもらい、割り当てられた担当者(2-3名)にレジュメを作成してもらい、授業時に発表をしてもらいます。講師による解説、補足を行ったうえで、さらに事前に割り当てた特定質問者(5-6名)による質疑を行い、その後、フロア全体での議論を行います。履修にあたって特別な知識は必要ないですが、何の予習もなく講義に参加することはできないため、事前の予習が不可欠となります。

また、成績評価を非常に厳しく行うので、努力、根性、気合いを見せてほしい。学位を取得しようとするならば、大学で学問をする覚悟と気概を持つこと。

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(4)(14)

担当教員： 瀬嶋 貞徳

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J304,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:01:46 更新者： AB4446

更新日時： 2024-01-12 14:46:19

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋の倫理思想について講義します。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①西洋における倫理思想の基本的理解。
- ②「価値」「倫理」について自ら考え、これからの人生に活かすことが出来る。

到達目標

公共哲学について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 西洋倫理思想の概略
3. カントとベンサム
4. 実存主義の倫理思想
5. ウィトゲンシュタインの倫理思想
6. 論理実証主義の倫理思想
7. ムーアの「直観主義」
8. スティーヴンスンの「情動主義」
9. ヘアの「指図主義」
10. ヘアの二層理論
11. ムーアの「自然主義的誤謬」
12. ムーアの「美的享受」
13. ムーアの「内在的価値」
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|----------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 50% 後期末にレポート課題を課します。 |

平常点 50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義内で適宜、参考文献を提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(7)(17)

担当教員： 尾留川 方孝

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J307,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:50 更新者： AC8022

更新日時： 2023-12-14 14:05:27

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

『日本書紀』の神話およびそれに続く伝説的記事は、日本での思想的側面を持つもっとも古い言説である。成立後ほどなく学問の対象とされ、その後も繰り返し学ばれた古典である。現代でもこれから派生したマンガやゲームなどがあり、目にするものは少なくないが、必ずしも本来の内容が知られているわけではない。

神話は、現実に行われていた神祇信仰とも密接に関連するし、外来思想と融合して神仏習合などの発展をする。また外来の思想や概念にもとづく新たな神話解釈が展開される。多様な展開や発展をするが、いずれも基礎となるのは神話であり、本来の内容を知っていることが、理解の大きな助けとなる。そういうわけで本講義では、本来の姿すなわち原典で読む。

まず、冒頭に神話を載せる『日本書紀』の成立の経緯と、表現形式について学ぶ。それから世界の生成、日本の国土の成立といった世界認識、その国土の統治者の希求と実現の経緯、統治の委譲といった政治性、さらに祭祀儀礼の対象ともなる神々の特質、現実・非現実の両方を含む他国との関係といった、さまざまな要素を、ストーリー順にたどる。さらに神話本文に対する異説の「一書」が日本書紀には多く存在していることに着目し、その理由や意義も考察し、世界のはじまりを説く神話の性質を考える。

科目目的

さまざまな日本の思想や文化を理解するために必要となる根幹的思想・概念の一つである神話を学ぶ。『日本書紀』のはじめに記される神話は、日本で成立し、ながく日本の文化や思想の基礎の一つであり続けた。日本の文化や思想は、古代から近現代にいたるまで、外来文化・思想（儒学や仏教など）の影響を大きく受けているが、その基底にはしばしば在来の文化・思想もある。より深い理解には、表面に見える外来文化・思想の知識のほかに、その基底にあるものの知識も重要である。その基底にあるものの一つである『日本書紀』の神話を学ぶ。

到達目標

神話を『日本書紀』でたどり、本来の神話の内容全体の概要を把握する。断片や部分ではなく、また後世のさまざまなに変化したものではなく、本来の内容の全体の概要を理解する。後世のさまざまな言説（思想や文学など）で、神話に由来する部分を指摘できる。また『日本書紀』成立の経緯や背景も学び、しばしば日本独自とされてきた文献も、外来文化の一定の影響により成立したことを理解する。

授業計画と内容

- 1、授業の概要と予定
- 2、神話と歴史、神話の思想性
- 3、『日本書紀』の成立と成立後の読まれ方／中国文化との比較と表現形式
- 4、天地開闢と神の生成／複数の「一書」の存在
- 5、国生みと三貴子（統治者の未成立）
- 6、黄泉国訪問譚
- 7、アマテラスの天窟屋戸ごもり（祭祀の起源1）
- 8、スサノオの罪と大祓（罪への対処）
- 9、スサノオのヤマタノオロチ退治とオオナムチの国造り
- 10、天ツ神の地上平定とオオナムチの国譲り（祭祀の起源2）
- 11、天孫降臨・海神宮訪問譚
- 12、神武天皇東征と即位（統治者の成立）
- 13、神話での世界構造／占い（太占・ウケイ）のモチーフ
- 14、総括・まとめ：神話の着地点と世界の把握

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他）

中間試験	0%	
期末試験	60%	『日本書紀』の神話の理解の程度を、記述式の問題により評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業内容の理解を確認する簡単な課題を、毎回授業時間内に提出してもらい、評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

毎回の課題（平常点の対象）の半数以上を提出し、なおかつ学期末試験を受験することを、評価の必要条件とする。毎回の課題の提出が半数に満たない場合は学期末試験の点数に関わらず不可（単位認定しない）とする。また学期末試験を受験しない場合、毎回の課題の提出回数にかかわらず不可（単位認定しない）とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

質問などはmanabaの「個別指導」で受け付けます。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
特定のテキストは用いない。プリントを配布する。

参考文献：
小島憲之等（校注訳）『日本書紀（1）』（小学館、新編日本古典全集、一九九四年）（ジャパンナレッジによりオンラインで閲覧可）
坂本太郎・家永三郎等『日本書紀（1）』（岩波文庫、一九九四年）
井上光貞（監）『日本書紀（上）』（中公文庫、二〇二〇年）
宇治谷孟『日本書紀（上）』（講談社学術文庫、一九八八年）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(8)(18)

担当教員： 尾留川 方孝

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J308,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:50 更新者： AC8022

更新日時： 2023-12-14 14:13:08

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

『日本書紀』の神話の概要を理解していることを前提に、神話が、現実世界にどのように展開し、他の思想とどのように絡み合ったかを学ぶ。神話はしばしば固有性が強調されるが、様々にひろがりがあったことを理解する。具体的には、1、神話や祝詞と中国由来の天命思想・災異思想の関係。2、神話および神祇信仰を基調とする仏教受容および神仏習合（神身離脱・本地垂迹）の解釈。3、「日本」の由来を語る神話を継承しつつも、日本・インド・中国を並べる三国観への展開。4、日本書紀の注釈に見られる神話を対象とする儒教・仏教の概念による哲学的解釈。こうした展開をたどる。

原文は漢文の文献を取り上げますが、プリントでは現代語訳や解説をしますので、漢文が苦手でもなんとかなるはずですよ。

科目目的

日本の思想のなかで、外来思想の受容やその影響を受けて、発展・展開したものを学ぶ。『日本書紀』の神話を基礎にしたいくつかの思想的展開をたどることで、日本固有の神話がしばしば儒学や仏教に代表される外来思想により解釈され、それを通して外来思想を取り込み、神話の意味や内容を拡張したことを学ぶ。すなわち、しばしば日本特有の思想とおもわれているものにも、実際には外来思想により支えられている場合があることを理解する。

到達目標

日本の神話および神祇信仰が発展した代表的なものを示すことができる。またそれを分析して、神話に由来する部分、儒学に由来する部分、仏教に由来する部分がどこなのか指摘でき、それぞれがどのように組み合わせられているか指摘できる。また元となった儒学や仏教の思想がどのようなものか、簡潔に説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 授業概要および予定の説明
- 第2回 「現在」の祭祀制度の成立（もう一人の初代天皇）
- 第3回 災異説と天帝と神祇（中国思想の受容として）
- 第4回 伊勢神宮の成立
- 第5回 カムロキ等の命令が祭祀の起点となる意味（初代天皇の考察）
- 第6回 審神・他神としての仏教受容／神祇祭祀と仏教儀礼
- 第7回 猿の神と仏教（神身離脱：神は仏に救いを求めるか？）
- 第8回 『沙石集』での天照大神と大日如来（国生み神話のリメイク）
- 第9回 『沙石集』での天照大神と大日如来（伊勢神宮と両界曼荼羅、斎戒と戒律）
- 第10回 『神皇正統記』での日本の相対化（日本・印度・中国の三国観）
- 第11回 『神皇正統記』での天地開闢神話の並記
- 第12回 『日本書紀纂疏』での天地開闢神話の儒学（性理学）的解釈
- 第13回 『日本書紀纂疏』での天地開闢神話の仏教的解釈
- 第14回 総括・まとめ：様々な思想・文化の基底としての神話

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

配布するプリントを、授業前に一通り読んでおくこと。また授業後には、授業で割愛した部分について、参考文献によって補うこと。神話で用いられている特徴的な表現や事物の名前などは、各種辞書を用いて理解を深めること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	神話の発展といえる事象について、神話に、どのような思想がどのように組み合わさっているか説明できるかを評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	授業の理解度を確認するために、簡単な課題を毎回授業時間中に書いてもらい、評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の課題を半数以上提出し、なおかつ期末試験の受験を、単位認定の必要条件とする。毎回の課題の提出が半数未満ならば、学期末試験の点数にかかわらず不可とする（単位認定しない）。また学期末試験を受験しない場合、毎回の課題の提出状況にかかわらず不可とする（単位認定しない）。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
特定のテキストは用いない。プリントを配布する。

参考文献：
小島憲之等（校注訳）『日本書紀（1）』（小学館、新編日本古典全集、一九九四年）（ジャパンナレッジによりオンラインで閲覧可）
坂本太郎・家永三郎等『日本書紀〈1〉』（岩波文庫、一九九四年）
井上光貞（監）『日本書紀（上）』（中公文庫、二〇二〇年）
宇治谷孟『日本書紀〈上〉』（講談社学術文庫、一九八八年）

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

